ホクレン営農支援情報

（2022 年 10 月号）

●労働力不足解消に向け産地間連携を実施《倶知安支所 営農支援室》

JA 新おたるでは、JA 全農ふくれん（全国農業協同組合連合会 福岡県本部）、農作業受託会社菜果野（なかや）アグリ（本社大分市）、旅行会社 JTB と連携し「北海道ミニトマト収穫プログラム」を実施しました。当プログラムは、国の農業労働力産地間連携等推進事業の一環で、後志管内仁木町でミニトマトの収穫や枝葉の剪定（せんてい）などの作業の働き手として、夏休み期間中の九州の大学生らに活躍してもらう取り組みです。参加者は、株式会社 JTB と雇用契約を締結し、仁木町内のコンテナホテルなどを宿泊先として利用。参加者への賃金は受け入れ生産者が負担しますが、交通費や宿泊費は国の事業を活用しました。

今回のプログラムは、8 月 16 日から 9 月 7 日までの期間を 3 クールに分け実施し、九州から延べ 45 名（270 人工）が参加。全 10 戸の生産者が受け入れました。参加した方からは「猛暑の続く九州と比べ、北海道は涼しく作業がしやすい」、受け入れした生産者からは「収穫時期は人手が足りないので助かった」と感謝する声が挙がりました。JA 新おたるでは地域全体での労働力確保を重要課題として掲げており、今後も産地間連携を含めさまざまな方法で労働力確保に向けた取り組みを継続していきます。

労働者と生産者の顔合わせ

作業風景

●酪農の新技術の見識向上に訓子府実証農場を視察《中標津支所 営農支援室》

7 月 25 日～26 日に、根室管内 JA 営農担当者協議会による、JA 関係者の酪農の新技術の見識向上を目的とした訓子府実証農場への視察が行われ 15 名が参加しました。

研修では①タイストール（つなぎ）牛舎用搾乳ロボット、②クロスブリーディング（異種交配）の取り組み状況、③跛行(はこう)の早期発見システムなどローカル 5G を活用した実証試験等を見学しました。

コロナ禍により視察研修の機会が得られなかった JA 担当者も多く、訓子府実証農場で初めて見るさまざまな技術に多くのことを感じていただき、有意義な視察研修となりました。

訓子府実証農場 畜産技術課より説明

ローカル 5G を活用した実証試験の見学

●担い手向け「トマト・ミニトマト」Web 研修会を開催します《営農支援推進課》

営農支援推進課では、就農年数の短い担い手等の人材育成を目的とした研修を開催しています。今回は、11 月 9 日（水）に「トマト・ミニトマト」をテーマとした Web 研修会を開催します。栽培技術や「うぃず One」についてなど、豊富なカリキュラムを用意。受講対象は農家後継者（概ね就農 5 年以内の U ターン、親元、新規就農者など）としていますが、基本的な知識を確認したい生産者の方も、ぜひお申し込みください。なお、Web 研修会の内容（録画した講義）は、後日 YouTube 内の「ホクレン アグリポートチャンネル」で限定公開する予定です。

お問い合わせは、JA を通じてホクレン各支所の営農支援室へお願いします。

＜開催日時：11 月 9 日（水）13:00～16:00＞

予定時間	講義	講師
13:00～13:05	開講挨拶・オリエンテーション	
13:05～13:55	トマト・ミニトマト栽培の基礎	ホクレン営農技術課
14:05～14:35	生産現場における技術改善の取り組み事例	北海道農政部生産振興局技術普及課
14:35～15:05	「うぃず One」を用いた大玉トマトの 2 本仕立て栽培法	花・野菜センター研究部花き野菜グループ
15:15～15:55	トマト・ミニトマトの病害虫防除	ホクレン技術普及課
15:55～16:00	閉講挨拶	

●アグリポート VOL.39 を発刊《営農支援推進課》

10 月 1 日にアグリポート VOL.39 を発刊しました。今回の特集は、「生産コスト低減の基本」です。コストを見直し利益を確保するために、生産費の現状や低減への考え方、コスト低減へのヒントとして、土壌分析の活用方法やトラクター整備、農薬の直送大型規格を紹介しています。

また、「緑肥と自給飼料」と題し、コスト面だけでなく安定的な農畜産物生産に役立つ緑肥や、今年の一番草（生草）の特徴と対応方法などについても掲載しています。

そのほか、「道産品のカタチ」では北海道産の鶏卵を使用した「道産卵のこだまシュー」を製造している株式会社北海道コクボを取り上げています。

ぜひ、ご覧ください。

発行： ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467　E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp